

【薬用作物産地支援 栽培技術研修】

研修会	開催日	集合場所	研修会場	現地研修場所
北海道	10月12日(火)~13日(水)	帯広駅前 (JR北海道根室本線)	とがちプラザ (帯広市)	JA帯広かわにし
東北・関東・北 陸	11月18日(木)~19日(金)	上毛高原駅 (JR東日本上越新幹 線)	白銀ビル貸し会議室 (群馬県高崎市)	JA利根沼田
東海・近畿	9月29日(水)~30日(木)	松ヶ崎駅前 (京都市営地下鉄烏丸 線)	武田薬品工業(株) 京都薬用植物園 (京都市)	武田薬品工業(株) 京都薬用植物園 (京都市)
中国・四国	9月2日(木)~3日(金)	観音寺駅前 (JR四国)	観音寺市民会館 (香川県観音寺市)	三豊薬草園 (観音寺市)
九州	10月27日(水)~28日(木)	杵築駅前 (JR九州日豊本線)	大分県中小企業会館 (大分市)	杵築市

※ 集合場所～現地研修～研修会場はバスで移動します

薬用作物産地支援 栽培技術研修 北海道会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： とかちプラザ 会議室 304（帯広市西4条南13丁目1）

実施時期： 10月12日(火)～13日(水)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月12日 (火)	12:40- 13:30 (50分)	12:30 現地集合 場所：帯広駅前（JR北海道 根室本線） 移動(バス利用)		事務局	
	13:30- 15:00 (90分)	〔現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	「JA帯広かわにし」のセンキュウの収穫、種芋採集、GPS機能付きトラクターを用いた定植等の現地見学を通じて、薬用作物の特徴、収穫後の調製技術等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:10- 16:00 (50分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:20- 17:20 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に向けた実需者側の取り組みについて解説する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班班長
10月13日 (水)	9:00- 10:30 (90分)	〔講義〕 薬用作物の栽培技術について (仮題)	地域の生産者からの要望の高い栽培技術について解説する（カンゾウ、シャクヤク、ハトムギ等）	林 茂樹	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター北海道研究リーダー
	10:40- 11:20 (40分)	〔講義〕 薬用作物の機械除草を核とした雑草防除体系の開発について（仮題）	農林水産省委託プロジェクト研究「多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発」で得られた、機械除草に除草剤を組み入れた総合的防除体系の成果について紹介する。	根本 英子	農研機構北海道農業研究センター 寒地酪農研究領域 自給飼料生産グループ 主任研究員
	11:30- 12:10 (40分)	〔講義〕 名寄市における薬用作物生産の取り組み～カノコソウの産地化について～（仮題）	名寄市における薬用作物生産振興に関する地域・生産者の取り組みを紹介する。	六郎田 直人	名寄市役所経済部農務課 農業振興係 主査
	12:10- 13:10	昼休み			
	13:10- 14:40 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40- 15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 東北・関東・北陸会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 20名
 研修実施場所： 白銀ビル貸し会議室（群馬県高崎市）
 実施時期： 11月18日(木)～19日（金）

	時間	研修科目	内容	講師	所属
11月18日 (木)	12:40-13:00 (20分)	12:40現地集合 場所：上毛高原駅（JR東日本） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:00-15:00 (120分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物の栽培技術等について	群馬県「利根沼田農業協同組合」のトウキ圃場における現地研修を通じて、薬用作物の特徴、栽培上の注意点、収穫、品質評価等について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。		
	15:00-15:50 (50分)	移動(バス利用) →高崎市内研修会場		事務局	
	16:10-17:10 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班長
11月19日 (金)	9:00-10:20 (80分)	〔講義〕 薬用作物の栽培技術にあたって（仮題）	地域の生産者から要望の高い栽培技術について解説する（シャクヤク、トウキ等）。	柴田 敏郎	前・国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター客員研究員
	10:30-11:10 (40分)	〔講義〕 岩手県における薬用作物研究について（仮題）	薬用作物における機械除草体系の確立とトウキの育苗省力化技術の開発について紹介する	大里 達朗	岩手県農業研究センター 県北農業研究所 作物研究室 室長
	11:20-12:00 (40分)	〔講義〕 長野県における薬用作物研究について（仮題）	長野県における薬用作物栽培研究の取り組みについて農水省委託プロの成果も含めて紹介する。	由井 秀紀	長野県野菜花き試験場佐久支場 専門研究員
	12:10-13:10	昼食			
	13:10-14:40 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	事前提出資料の報告をもとに、各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 東海・近畿会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 武田薬品工業(株) 京都薬用植物園 (京都市左京区一乗寺竹ノ内町11番地)

実施時期： 9月29日(水)～9月30日(木)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月29日 (水)	13:20-13:40 (20分)	13:00現地集合 場所：松ヶ崎駅前（市営地下鉄烏丸線） 移動(バス利用)			
	13:45-15:15 (90分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物栽培について	京都薬用植物園における現地研修で、薬用作物の特徴、品質評価について、今後の支援に必要な知識・技術の理解を深める。	京都薬用植物園 スタッフ	武田薬品工業(株) 京都薬用植物園
	15:30-16:30 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の現状、国内産地化に期待する内容について理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生薬国内生産検討班班長
	16:40-17:00 (20分)	移動(バス利用) →松ヶ崎駅前			
9月30日 (木)	8:15-8:40 (25分)	松ヶ崎駅前 →移動(バス利用)	バス利用希望者		
	9:00-10:20 (80分)	〔講義〕 薬用作物の国内栽培技術 (仮題)	国内栽培の期待が高い薬用作物の栽培技術について解説する。(ミシマサイコ、ジャクヤク、ジュウヤク、トウキ等)	酒井 英二	岐阜薬科大学 薬草園研究室 教授
	10:30-11:20 (50分)	〔講義〕 薬用作物の栽培について(仮題)	ジャルヒゲ、カンゾウ等の栽培技術について解説する。	尾崎 和男	大阪薬科大学 薬学部 生薬科学研究室
	11:30-12:10 (40分)	〔講義〕 三重県における薬用作物の取り組み(仮題)	三重県における薬用作物栽培の取り組みについて、農林水産省委託「薬用プロ」に参画して得られた成果も併せ紹介する。	小林 泰子	三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 花植木研究課 主幹研究員兼課長
	12:10-13:10	昼休み			
	13:10-14:40 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題について情報交換を行うとともに、今後の産地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40-15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査を実施	事務局	
	15:15-15:35 (20分)	移動(バス利用) →松ヶ崎駅前	バス利用希望者		

薬用作物産地支援 栽培技術研修 中国・四国会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会
 受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者
 研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上
 受講定員： 15名
 研修実施場所： 観音寺市民会館（香川県観音寺市観音寺町甲1186-2） 会議室7
 実施時期： 9月2日(木)～9月3日(金)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
9月2日 (木)	13:20- 13:45 (25分)	13:00現地集合 場所：観音寺駅前（JR四 国予讃線） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:45- 15:25 (100分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物栽培について	三豊薬草園（みとよ やくそうえん）における 現地研修で、薬用作物の特徴、品質評価 について、今後の支援に必要な知識・技術の 理解を深める。	田中 照男	三豊薬草園
	15:25- 15:55 (30分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:10- 17:10 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今 後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の 現状、国内産地化に期待する内容について 理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生 薬国内生産検討班班長
9月3日 (金)	9:00- 10:20 (80分)	〔講義〕 薬用作物の栽培法と調製法 について（仮題）	ミシマサイコの栽培法及びミシマサイコ、トウ キ、シャクヤクの調製法について、実際の生薬 サンプルを示しながら解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基 盤・健康・栄養研究所薬用 植物資源研究センター 客 員研究員
	10:30- 11:00 (30分)	〔講義〕 農水省委託プロジェクト研究 「薬用作物の国内生産拡大 に向けた技術の開発」について （仮題）	トウキ、ミシマサイコ等の主要5品目について 高品質な産品を低コストで安定的に栽培・ 収穫し、複合経営モデルを実証することを目 的とした当該プロジェクト研究が昨年度完了 した事を受け、得られた成果について解説す る。	川嶋 浩樹	農研機構西日本農業研究 センター 中山間畑作園芸 研究領域 研究領域長補 佐
	11:10- 12:10 (60分)	〔講義〕 山口県における薬用作物裁 培の取り組みについて（仮 題）	山口県における薬用作物栽培の取り組み について、上記プロジェクトに参画して得られ た成果も併せ紹介する。	安永 真	山口県農林総合技術セン ター 農業技術部 園芸作 物研究室 果樹栽培グル ープ 専門研究員
	12:10- 13:10	昼休み			
	13:10- 14:40 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成 における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題 について情報交換を行うとともに、今後の産 地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40- 15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査 を実施	事務局	

薬用作物産地支援 栽培技術研修 九州会場

研究実施主体： 薬用作物産地支援協議会

受講対象者： 普及指導員、営農指導員、市町村職員、その他薬用作物の産地育成関係者

研修目的： 薬用作物の産地形成・栽培技術指導の確立、産地の生産性向上

受講定員： 20名

研修実施場所： 大分県中小企業会館（大分県大分市金池町3-1-64） 中会議室

実施時期： 10月27日(水)～28日(木)

	時間	研修科目	内容	講師	所属
10月27日 (水)	13:00- 13:30 (30分)	12:50現地集合 場所：杵築駅前（JR九州 日豊本線） 移動(バス利用)	研修の概要説明	事務局	
	13:30- 15:10 (100分)	〔講義・現地研修〕 薬用作物の栽培技術等につ いて	杵築市（東京生薬協会との薬用作物栽培 に関する連携協定締結）の圃場における現 地研修で、収穫間近の状況を見学し、薬用 作物の特徴、品質評価について、今後の支 援に必要な知識・技術の理解を深める。	山上 勉 藤原 陽一郎	公益社団法人東京生薬協 会 薬用植物栽培指導員 杵築市農林水産課 課長補佐
	15:10- 16:10 (60分)	移動(バス利用) →研修会場		事務局	
	16:30- 17:30 (60分)	〔講義〕 薬用作物の実需者ニーズと今 後の国内栽培について	製薬企業の薬用作物調達と漢方薬生産の 現状、国内産地化に期待する内容について 理解する。	小柳 裕和	日本漢方生薬製剤協会生 薬国内生産検討班長
10月28日 (木)	9:00- 10:30 (90分)	〔講義〕 薬用作物の栽培法と調製法 について	ミシマサイコの栽培法及びミシマサイコ、トウ キ、シャクヤクの調製法について、実際の生薬 サンプルを示しながら解説する。	飯田 修	国立研究開発法人医薬基 盤・健康・栄養研究所薬用 植物資源研究センター 客 員研究員
	10:40- 12:10 (90分)	〔講義〕 薬用作物産地化の必要性と 各薬用植物の栽培方法につ いて	薬用作物の産地化方法について、成功・失 敗事例を踏まえて解説する。	渥美 聡孝	九州保健福祉大学 薬学 部 薬学科 講師
	12:10- 13:10	昼休み			
	13:10- 14:40 (90分)	〔情報交換会〕 各地域の薬用作物産地形成 における課題と対応	各地域の薬用作物産地形成に向けた課題 について情報交換を行うとともに、今後の産 地育成支援の進め方を討議する。	講師同席	
	14:40- 15:00	閉会	研修に対する評価等についてアンケート調査 を実施	事務局	